

製品名: PHD3 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe87588**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB, ICC/IF, IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000, ICC/IF 1:100-1:200, IP 1:50-1:100
分子量	Calculated MW:27 kDa; Observed MW:27 kDa

抗原情報

遺伝子名	PHD3
別名	PHD3; HIFPH3; HIFP4H3
遺伝子ID	112399
SwissProt ID	Q9H6Z9
免疫原	ヒト PHD3 の組み換えタンパク質

背景

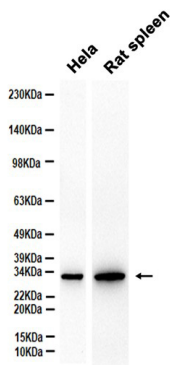
細胞内酸素センサー。常酸素条件下で、低酸素誘導因子（HIF） α タンパク質中の4-ヒドロキシプロリンの翻訳後形成を触媒す

る。HIF1Aの酸素依存性分解(ODD)ドメイン(N末端NODDおよびC末端CODD)それぞれに存在する特定のプロリンを水酸化する。HIF2Aも水酸化する。HIF1AとHIF2Aの両方において、CODD部位を優先的に水酸化する。EGLN3によるNODD部位の水酸化には、CODD部位の事前水酸化が必要であると考えられる。水酸化されたHIFは、フォン・ヒッペル・リンドウユビキチン化複合体を介してプロテアソーム分解の標的となる。低酸素状態では、水酸化反応が弱まり、HIFが分解を免れ、その結果、核への移行、HIF1Bとのヘテロ二量体形成、および低酸素誘導性遺伝子の発現の増加が起こります。

研究分野

-

画像データ



PHD3 ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用して、HeLa 細胞およびラットの脾臓組織からの抽出物をウェスタン ブロット分析しました。